

シリーズ

私の森語り

もりかた
森林・林業との関わりの中で、様々な課題に
挑戦されている方の取組を紹介します。



「森林から学んだこと」を
普及活動に活かす



富山市科学博物館
学芸員
おた ひと 太田 道人

■自己紹介

富山市科学博物館の植物分野担当学芸員として四十三年間、主に富山県内をフィールドに自然を観察し、標本を集め、市民向けの自然観察会や博物館の展示更新などを行ってきました。また、国際山岳観光地「立山」で外来植物除去の指導、富山県全域で絶滅危惧植物の調査やとりまとめなども行っています。

■活動内容

「生命のつながりを教えてくれた森への恩返し」

立山の美女平(標高約一、〇〇〇m)ではタテヤマスギの巨木群を見られるのが特徴で、博物館主催の自然観察会を四十年以上続けています。巨大なスギの「あがりこ」が点在し、三世代に渡って倒木や切株により更新



根元に空洞のあるスギ
「500年ほど前には、ここに倒木が横たわっていたんだよ」
～立山美女平の自然観察会での一コマ～

された痕跡から、数百年前の伐採の歴史を読み取ることが出来ます。また、上部のブナ坂ではブナ林の多様な生物を楽しむことができます。

私が見てきたわずか四十年程の間にも、大木の枯死や倒伏に何度か遭遇しました。はじめの頃は、森の象徴が一つ消えて残念、と思うだけでしたが、最近では、巨木の陰でいじけていた小さなブナが日の光を浴びて、がぜん元気を取り戻して成長しているのを見て、喜びを感じています。森林の変化は人間から見れば「ゆっくり」ですが、その歩みは「着実」で、ブレない芯をもつ生命体のようにも思えます。私にとって美女平の森は、生命のつながりを教えてくれた先生です。この気づきを一人でも多くの市民に伝えていくことが、森への、ひいては



富山市科学博物館2階にある森の展示の一部
カモシカ(手前)が来館した子どもを眺めています

自然への恩返しだと思つて取り組んでいます。

「森の展示で伝えたい」

思い返せば、「ウオークスルー・ブナ林」「高山植物のジオラマ」「夜の照葉樹林」「立山杉の巨大切株」など、私は森林の展示をいくつも作ってきました。森は、それぞれに巧みな生き方をしている生物が何千種類も集まり、互いにつながりあうことで成り立っている生態系です。その型にたどり着くまでに気の遠くなるような時間がかかっていることを思うと、自然の仕組みに畏敬の念さえ覚えます。

時間と空間を違えることで多様な生き物が生活できることや、種類のまったく違う生き物がどこかでつながっている。そんなことに気づく喜びを、展示を見てくださる人たちと分かち合えたらと思つています。

■メッセージ

立山室堂平(標高一、四五〇m)は、高山景観や植物、ライチョウなどが見られる観光地であると同時に、立山連峰への登山拠点であり、雪氷や生物調査の拠点でもあります。ここには、富山県の自然解説員「ナチュラリスト」がいて、観光客に花の名前や自然と人との関わりや歴史などを解説しています。また、外来植物除去を希望するボランティア団体へ除去指導も行っています。私もこれらの活動を応援しつつ、共に取り組んでいます。自然を大切に思う人が増えることを願つて。



富山県の自然解説員
「ナチュラリスト」は自然と人をつなぐ役割を果たします

■連絡先

富山県富山市西中野町一丁目 8-31
富山市科学博物館
コードはこちら↓

